

# 主要部－主要部構造のラベル付けに関して

川満 潤

## 1. 概要

Chomsky (2013, 2015)は、併合操作で形成された集合は、一定のアルゴリズムによってラベルが決定することを提案した。本稿では、ラベル付けアルゴリズムに基づき、{主要部－主要部}構造はラベル付けに失敗するという主張の下で、これまで観察されてきた残留現象に対する理論的な説明を試みる。

## 2. ラベル付けアルゴリズムと提案

Chomsky (2013, 2015)では、併合により形成された集合は、以下のアルゴリズムによりラベル付けされると提案した。

(1) 集合{H, XP}において、Hが主要部でXPが主要部ではない場合、Hがラベルとなる。

(2) 集合{XP, YP}において、XPとYPのどちらも主要部でない場合、

a. XPとYPにおける共有素性がラベルとなる。

b. XPとYPのどちらか一方が移動することで、残留した句がラベルとなる。

本稿では、(1)と(2)に示すラベル付けに加え、以下に示す主要部同士の併合によって形成された{H, H}構造もまた、{XP, YP}構造と同様にラベル付けの失敗を示すと仮定する。

(3)  $\gamma = \{H_1, H_2\}$        $\gamma = ??$

これらの仮定の下、主要部と句により形成された集合において、句レベルの要素が移動した場合のラベル付けに関して、以下を提案する。

(4) a.  $\{\alpha H_1 \{ \beta H_2, \mathbf{XP} \} \}$ 構造において、XPが移動した場合、 $\beta$ のラベルは $H_2$ と決定する。

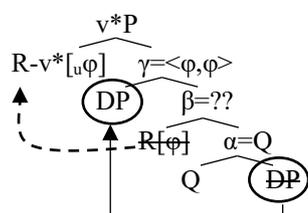
b.  $\alpha$ のラベルは、 $\{H_1, H_2\}$ の主要部－主要部構造によりラベルが決定しない。

上記の提案における重要な点は、(4a)において、 $\beta$ のラベルはXPの移動により $H_2$ と決定するが、集合 $\beta$ が句レベルの要素ではなく、主要部レベルの特性を持つと想定することであり、同様の分析がMaeda (2021)において観察されている。これにより、(4b)に示すように、 $\alpha$ のラベルは{H, H}構造により決定されない。(4)の提案を支持する1つの経験的証拠として、以下の数量詞遊離文の事実が挙げられる。

(5) a. \*Mary hates the students all.

(Bošković (2004: 682))

b.



(5)に示すように、数量詞は動詞の補部位置で遊離できないことが広く観察されている。Chomsky (2015)で想定される派生に基づき、Rootの補部位置に数量詞を残留させ、関連付けられる名詞句のみがR指定部へ移動すると、ラベル付けの際、 $\beta$ のラベルが{H, H}構造により決定しない。<sup>1</sup>従って、適切に非文法性を予測できる。また、動詞の補部に生じる遊離数量詞に前置詞句が後続した場合、文法性が向上することが観察されている。

(6) a. Mary put the books all on the proper shelf.

(Maling (1976: 712))

b.  $[R-v* [ \text{the books} ] [ \delta R [ \gamma [ \beta \text{ all the books} ] [ \alpha \text{ on the proper shelf} ] ] ] ] ]$

この場合、 $\alpha=PP$ ,  $\beta=Q$ ,  $\gamma=QP$ ,  $\delta=RP$ とラベルが決定するため、(5b)の $\beta$ に関するラベルの問題は生じず、正しく文法性を捉えうる。<sup>2</sup>

## 3. 分析

(4)の提案は、以下で分析する残留現象にも拡張でき、従来指摘されてきた残留に関する記述一般化に対してラベル理論の観点から理論的な説明を与え得ることを主張する。

(7) a. Nobody had expected that the FBA would assassinate the king of Ruritania.

(Radford (2020: 87))

b. \*King of Ruritania, nobody had expected that the FBA would assassinate the.

(*ibid.*)

c. The king of Ruritania, nobody had expected that FBA would assassinate.

(*ibid.*)

d. \*The FBA would assassinate the king of Ruritania, nobody had expected that.

(*ibid.*)

e. That FBA would assassinate the king of Ruritania, nobody had expected.

(*ibid.*)

上記の話題化の例において、(7b)のように決定詞 *the* を残留させて名詞句 *king of Ruritania* の移動は非文法的となる一方で、(7c)のように DP 全体で移動した場合は適格文となる。同様に、(7d)のように補文標識 *that* を残留させ、TP 全体が移動を受けると非文法的となるが、CP 全体が話題化された(7e)は適格文となる。この言語事実に対して、Radford (2020)は以下の一般化を主張している。

(8) Stranding Constraint

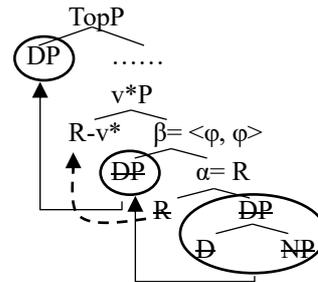
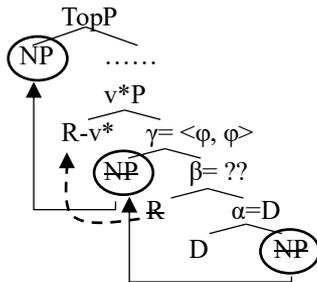
No D/determiner, Q/quantifier, ART/article or C/complementizer can be stranded without its complement.

(Radford (2020: 88))

本稿における提案に基づく、特定の要素を残留させる話題化が容認されない例は、{H, H}構造によるラベル付けの失敗により適切に予測される。以下に派生を示す。

(9) a. \*D-stranding NP topicalization (=7b))

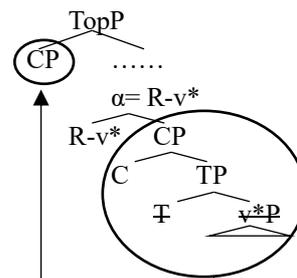
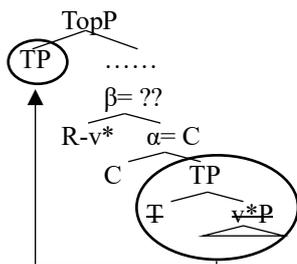
b. DP topicalization (=7c))



(9a)において、R の補部位置に併合された集合  $\alpha$  内から NP のみが話題化により移動し、D 主要部が残留した場合、 $\beta$  が {R, D} 構造により適切にラベル付けされない。一方、(8b)のように特定の主要部の残留がない場合、適切にラベルが決定する。

(10) a. \*C-stranding TP topicalization (=7d))

b. CP topicalization (=7e))



(10a)のように、C 主要部を残留させ TP が話題化した場合、残留した C 主要部が  $\alpha$  のラベルとして決定されるため、 $\beta$  のラベルが {<R, v\*>, C} の {H, H} 構造のため決定しない。反対に、CP 全体が話題化のため移動を伴う (10b) の場合、 $\alpha$  のラベルが適切に決定するため適切文が予測される。<sup>3</sup>

D 主要部を残留させる NP 移動や、C 主要部を残留させる TP 移動は容認されない。これは、残留した主要部と、その主要部と併合する上位の主要部間で {H, H} 構造を形成し、ラベル付けが適切に行われなことから予測される。従って、特定の主要部残留が容認されないことを記述した(8)の一般化は、ラベル付けアルゴリズム分析の下で、理論的な説明が与えられる。

<sup>1</sup> Chomsky (2015)に従い、R はラベル付け後に、v\*へ内的対併合すると想定する。従って、(5b)における  $\beta$  のラベルは R と Q の {H, H} 構造により決定しない。

<sup>2</sup> 本稿では、便宜的に主要部レベル(H)の要素と句レベル(HP)の要素のラベルを区別している。

<sup>3</sup> (10b)では、<R, v\*>を残留させ CP 全体が移動した際、後の派生で<R, v\*>と併合する T との間で {H, H} 構造が生じる可能性がある。この点は、共有素性によるラベル付けの可能性が考えているが、詳細は今後の課題とする。

**主要参考文献** Boškovic, Željko (2004) "Be careful where you float your quantifiers," *Natural Language & Linguistic Theory* 22, 681-742. / Chomsky, Noam (2013) "Problems of projection," *Lingua* 130, 33-49. / Chomsky, Noam (2015) "Problems of Projection: Extensions," *Structures, Strategies and Beyond*, ed. by Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini, 3-16, John Benjamins, Amsterdam. / Maeda, Masako (2021) "Labeling in Inversion Constructions," *English Linguistics* 38 (1), 91-105. / Maling, Joan (1976) "Notes on quantifier postposing," *Linguistic Inquiry* 7, 709-718 / Radford, Andrew (2020) *An Introduction to English Sentence Structure*, Cambridge University Press, Cambridge.